

ぐるっと音楽紀行

イタリア・ローマ

旅するピアニスト

赤松林太郎

♪ 2



2018年11月、5度目のイタリア・ローマ。路地裏のレストランで抜栓したフラスカーティの白ワインが、11年間眠っていた記憶の扉をゆっくりと押し開きました。

都市に水を供給した石造りの水道橋。並行する線路を走ってローマから半時間ほどのフラスカーティは、古くからワインの産地として有名な街。思い返せばフラスカーティでリサイタルをした日も冷たい雨が降っており、ローマ市内の丘を下りる道すがら、行商人から買った傘が重宝しました。この時期の雨は長く尾を引きます。

19世紀で最も偉大なフランツ・リスト（「ラ・カンパネラ」の作曲者）を冠したコンクールは世界各地にあります。ローマでも2018年に設立され、その第1回に審査員として招かれました。

会場はかつてのファルコニエーリ宮だったハンガリーアカデミーで、テヴェレ川に沿ったジュリア通りの歴史ある美しい建物。10歳

物語へといざなう美しい小道



ジュリア通り。いずれも2018年、イタリア・ローマ（赤松林太郎さん提供）

に満たない年齢から大人に至るまでいくつかのカテゴリーに分かれていましたが、どの演奏もこれがコンクールであることを忘れさせるような人間性や芸術性を表していました。

会場に最寄りのバス停が、ちょうどサンタンドレア・テッラ・ヴァッレ教会の前でした。この教会は、なによりも「トスカ」第1幕の舞台として知られています。このオペラが最も表しているのは1800年のローマ、つまりナポレオン1世が北イタリアを再獲得し

てイタリア王国を建国する前、その不穏な政局を反映した空気感です。

第2幕はローマの警視総監スカルピアが主人公となりますが、反ナポレオン派の彼が公邸に使ったファルネーゼ宮が現在のフランス大使館であることも、このオペラを理解する上で重要な鍵となります。ローマにおけるファルネーゼ家の栄光と権謀の数々については知られるところです。

そして終幕はサンタンジェロ城。ここは歴代の教皇によって強化され、監獄を含む軍事的施設としてバチカン市国のサンピエトロ大聖堂と地下で通じている、まさにローマの要塞。それだけで魍魎（わうりょう）がうごめく夜のローマが印象づけられ、主人公の全員が絶命を遂げる悲劇が完結するわけです。

ローマを歩いていると、この全3幕の舞台を結ぶ線がジュリア通りであることに気がきます。貴族の豪邸が立ち並ぶこの美しい小道も、夜は闇が深く、多くの暗殺者が暗躍したにちがいありません。

歴史に翻弄（ひんろう）される人間の強さともろさ、限りある命、気高さと愚かさ、愛と憎しみ、飢え、葛藤。人間の持つ尊厳や愛の深さと、それを一握りでつぶしてしまう権力の暴力性といった二律背反。

古代より2千年以上にわたり、この街には多くの芸術が残されたこと、芸術は人が精いっぱい生きたことの証し。ローマにひかれるのは、ローマそれ自体が物語だからに他ならないでしょう。

◇第2月曜に掲載します。



第1回リスト国際音楽コンクール（ローマ）。中央が赤松林太郎さん



あかまつ・りんたろう 1978年、大分県生まれ。2歳から神戸で育つ。兵庫高、神戸大発達科学部卒。パリ・エコール・ノルマル音楽院高等演奏家資格首席取得。2007年に帰国し、国内外で活動。洗足学園音楽大客員教授、大阪音楽大特任准教授。神戸市在住。

